

ホタルを観察しよう

～第1回千波湖環境学習会開催報告～

6月7日に水戸市環境フェア 2025 関連事業として千波湖環境学習会第1回目の「ホタルを観察しよう」を開催しました。

当日は朝から天候に恵まれ、気温も高めでホタル観察日和となりました。18時から受付開始とともに、参加者の方々が続々と来場され、参加者数は668名で過去最高を記録しました。

19時から、逆川こどもエコクラブ小島氏の司会により開会式が始まりました。

開会式終了後、参加者はA班、B班、C班の3班に分かれて、千波湖周辺のホタルについて、生態やどのような保護活動を行っているのかについて説明を受け、その後、暗くなるまでの時間を利用してホタルについて学びました。



ゲンジボタルとヘイケボタルの違いや、活動する時間、どんなところに生息していて、何を食べて生きているのか、ホタルを守るために必要なことは何かといった、ホタルについてより学ぶことができるクイズを行いました。クイズは10問で、子どもたちは我先にと元気よく手を挙げて回答していました。

日が暮れてちょうどクイズが終わったところで、ホタル観察が始まりました。

3班が順番に会場を時計回りに歩きながらホタル観察を行いました。すると各所で、ホ



タルが光るたびに歓声が上がってきました。事前に説明された「ホタルに触らない、連れて帰らない、懐中電灯などでホタルを照らさない」といった、観察時の注意事項を守り、ゆっくりと歩いて観察を行いました。

参加者の方々の中には毎年この観察会を楽しみにしている方や、初めて参加の方、ホタル自体を初めて見ることができた方など、皆様それぞれに観察を楽しんでいました。

観察会の終わりには、参加してくれた子どもたち全員にヤクルトを配り、無事に終えることができました。

提供品等ご協力いただきありがとうございました。

共 催 :一般社団法人水戸市公園協会様

飲 み 物 :水戸ヤクルト販売株式会社様

「ビオトープ」を作ろう ～第2回千波湖環境学習会開催報告～

千波湖環境学習会では千波湖の水質浄化を目指す一環として、水戸市の関係各課と協議を重ね、2012年度からビオトープの造成を進めています。

このビオトープの造成により、特に水中の窒素分を植物が吸収する水質浄化効果や、定着・生息できる水生生物の増加による生物多様性の向上が期待できます。毎年6月開催の学習会では参加された親子約200人の協力により植栽し、これまでに湖岸周囲3kmのうち、南岸の約300m区間でビオトープを造成し、昔の千波湖を象徴する湿地帯を再生しています。

今年はこれまでに開催されたビオトープのなかで、水深が深く植物があまり育たなかつた場所で植栽活動を行いました。

植栽セキショウを、千波湖水質浄化推進協議会の皆様が逆川でのホタル保全活動の時に、茂りすぎた2000本引き抜いて提供してくださり、また周辺で増え過ぎたガマも200本使用しました。

開会式は千波湖親水デッキで実施し、水戸市長高橋靖様から挨拶をいただきました。

その後、千波湖湖岸を歩いて、ビオトープ会場へ向かい、記念写真を撮影後、植栽作業の手順について説明を受けてから、作業を開始しました。

子どもたちは用意されたセキショウやガマを次々に手に取り、大人の手を借りながら植栽を進めました。

中には、何度もセキショウを運ぶ子どもたちもあり、泥だらけになりながら歓声を上げ、楽しそうに活動していました。



提供品等ご協力いただきありがとうございました。

共 催：千波湖水質浄化推進協議会様

飲み物：株式会社ジーエスケー茨城様

全身すっきりシート：花王株式会社鹿島工場様

「ムシムシ探検とオオキンケイギク除去」を行おう ～第3回千波湖環境学習会開催報告～

6月8日に水戸市環境フェア2025関連事業として、「ムシムシ探検とオオキンケイギク除去」を行い、親子160名にご参加いただきました。

オオキンケイギク除去活動では、生育している川岸まで移動して、実際に抜き取り体験を行いました。現地で茨城生物の会の先生から以下の説明を受けました。①環境省の特定外来生物に指定されていること、②除去するためには根ごと抜き取ること、③抜いたものは種などが飛び散らないように袋に入れることなどの説明を受けました。保護者の方たちにご協力いただき、大きなごみ袋4個分のオオキンケイギクを除去することができました。



大量のオオキンケイギク除去



ムシの説明を聞く子どもたち

除去作業後、ムシムシ探検が行われ、子どもたちは昆虫を採取する際の注意事項の説明を受けたうえで、一生懸命走り回りながら虫を捕まえていました。茨城生物の会の佐々木先生や当協会職員からムシの解説が行われ、子どもたちは興味津々に耳を傾けていました。今回の探検は、自然に触れて多くの知識を得られた昆虫採取となりました。

参加者は、芝生広場や池周囲のヨシ群落などでシオカラトンボ、ホシベニカミキリ、モンシロチョウ、キリギリス、クルマバッタ、ショウワリョウバッタなどいろいろな虫たちを追いかけて捕まえて楽しんでいました。

オオキンケイギク除去とムシムシ探検は当協会と茨城生物の会様との共催で毎年行われています。協力いただいた方々にお礼申し上げます。



珍しいホシベニカミキリと多く見られたショウワリョウバッタ



提供品等ご協力いただきありがとうございました。

共 催：茨城生物の会様

飲み物：いばらく乳業株式会社様、中央技術株式会社様

外来種を調べよう

～第4回千波湖環境学習会開催報告～

6月8日、水戸市環境フェア2025関連事業として午前中に実施された「ビオトープづくり」や「ムシムシ探検&オオキンケイギク除去」に続き、午後から第4回千波湖環境学習会「外来種を調べよう」を開催しまし、子ども50人、大人42人、合計92人と沢山の方々にご参加いただきました。

初めに、講師から千波湖に生息する外来種と在来種についての解説があり、近年、外来種によって在来種の生息環境が脅かされていることなどの説明がありました。



ヌマチチブ

まず、生き物を採取するため学習会前日から湖内に仕掛けておいたカゴ罠と、1本のはえ縄を子どもたちと引き上げました。しかし、残念ながらはえ縄には魚はかかっていませんでしたが、カゴ罠には、モクズガニやヌマチチブなど在来種が入っており、子どもたちは興味津々でした。

特に、モクズガニの腕に生えた毛のざらざらとした感触や、硬い甲羅に触れた子どもたちは、歓声を上げながら生き物とのふれあいを楽しんでいました。



かご罠を仕掛ける様子



モクズガニを触る子どもたち



捕れた生き物の説明

提供品等のご協力をいただきありがとうございました。

共 催：逆川こどもエコクラブ様

飲み物：いばらく乳業株式会社様、中央技術株式会社様

観戦チケット：株式会社フットボールクラブ 水戸ホーリー・ホック様

ホタルを観察しよう

～第1回千波湖環境学習会開催報告～

6月7日に水戸市環境フェア 2025 関連事業として千波湖環境学習会第1回目の「ホタルを観察しよう」を開催しました。

当日は朝から天候に恵まれ、気温も高めでホタル観察日和となりました。18時から受付開始とともに、参加者の方々が続々と来場され、参加者数は668名で過去最高を記録しました。

19時から、逆川こどもエコクラブ小島氏の司会により開会式が始まりました。

開会式終了後、参加者はA班、B班、C班の3班に分かれて、千波湖周辺のホタルについて、生態やどのような保護活動を行っているのかについて説明を受け、その後、暗くなるまでの時間を利用してホタルについて学びました。



ゲンジボタルとヘイケボタルの違いや、活動する時間、どんなところに生息していて、何を食べて生きているのか、ホタルを守るために必要なことは何かといった、ホタルについてより学ぶことができるクイズを行いました。クイズは10問で、子どもたちは我先にと元気よく手を挙げて回答していました。

日が暮れてちょうどクイズが終わったところで、ホタル観察が始まりました。

3班が順番に会場を時計回りに歩きながらホタル観察を行いました。すると各所で、ホ



タルが光るたびに歓声が上がってきました。事前に説明された「ホタルに触らない、連れて帰らない、懐中電灯などでホタルを照らさない」といった、観察時の注意事項を守り、ゆっくりと歩いて観察を行いました。

参加者の方々の中には毎年この観察会を楽しみにしている方や、初めて参加の方、ホタル自体を初めて見ることができた方など、皆様それぞれに観察を楽しんでいました。

観察会の終わりには、参加してくれた子どもたち全員にヤクルトを配り、無事に終えることができました。

提供品等ご協力いただきありがとうございました。

共 催 :一般社団法人水戸市公園協会様

飲 み 物 :水戸ヤクルト販売株式会社様

「ビオトープ」を作ろう ～第2回千波湖環境学習会開催報告～

千波湖環境学習会では千波湖の水質浄化を目指す一環として、水戸市の関係各課と協議を重ね、2012年度からビオトープの造成を進めています。

このビオトープの造成により、特に水中の窒素分を植物が吸収する水質浄化効果や、定着・生息できる水生生物の増加による生物多様性の向上が期待できます。毎年6月開催の学習会では参加された親子約200人の協力により植栽し、これまでに湖岸周囲3kmのうち、南岸の約300m区間でビオトープを造成し、昔の千波湖を象徴する湿地帯を再生しています。

今年はこれまでに開催されたビオトープのなかで、水深が深く植物があまり育たなかつた場所で植栽活動を行いました。

植栽セキショウを、千波湖水質浄化推進協議会の皆様が逆川でのホタル保全活動の時に、茂りすぎた2000本引き抜いて提供してくださり、また周辺で増え過ぎたガマも200本使用しました。

開会式は千波湖親水デッキで実施し、水戸市長高橋靖様から挨拶をいただきました。

その後、千波湖湖岸を歩いて、ビオトープ会場へ向かい、記念写真を撮影後、植栽作業の手順について説明を受けてから、作業を開始しました。

子どもたちは用意されたセキショウやガマを次々に手に取り、大人の手を借りながら植栽を進めました。

中には、何度もセキショウを運ぶ子どもたちもあり、泥だらけになりながら歓声を上げ、楽しそうに活動していました。



提供品等ご協力いただきありがとうございました。

共 催：千波湖水質浄化推進協議会様

飲み物：株式会社ジーエスケー茨城様

全身すっきりシート：花王株式会社鹿島工場様

「ムシムシ探検とオオキンケイギク除去」を行おう ～第3回千波湖環境学習会開催報告～

6月8日に水戸市環境フェア2025関連事業として、「ムシムシ探検とオオキンケイギク除去」を行い、親子160名にご参加いただきました。

オオキンケイギク除去活動では、生育している川岸まで移動して、実際に抜き取り体験を行いました。現地で茨城生物の会の先生から以下の説明を受けました。①環境省の特定外来生物に指定されていること、②除去するためには根ごと抜き取ること、③抜いたものは種などが飛び散らないように袋に入れることなどの説明を受けました。保護者の方たちにご協力いただき、大きなごみ袋4個分のオオキンケイギクを除去することができました。



ムシの説明を聞く子どもたち

タなどいろいろな虫たちを追いかけて捕まえて楽しんでいました。

オオキンケイギク除去とムシムシ探検は当協会と茨城生物の会様との共催で毎年行われています。協力い

ただいた方々にお礼申し上げます。

除去作業後、ムシムシ探検が行われ、子どもたちは昆虫を採取する際の注意事項の説明を受けたうえで、一生懸命走り回りながら虫を捕まえていました。茨城生物の会の佐々木先生や当協会職員からムシの解説が行われ、子どもたちは興味津々に耳を傾けていました。今回の探検は、自然に触れて多くの知識を得られた昆虫採取となりました。

参加者は、芝生広場や池周囲のヨシ群落などでシオカラトンボ、ホシベニカミキリ、モンシロチョウ、キリギリス、クルマバッタ、ショウワリョウバッ



珍しいホシベニカミキリと多く見られたショウワリョウバッタ



提供品等ご協力いただきありがとうございました。

共 催：茨城生物の会様

飲み物：いばらく乳業株式会社様、中央技術株式会社様

外来種を調べよう

～第4回千波湖環境学習会開催報告～

6月8日、水戸市環境フェア2025関連事業として午前中に実施された「ビオトープづくり」や「ムシムシ探検&オオキンケイギク除去」に続き、午後から第4回千波湖環境学習会「外来種を調べよう」を開催しまし、子ども50人、大人42人、合計92人と沢山の方々にご参加いただきました。

初めに、講師から千波湖に生息する外来種と在来種についての解説があり、近年、外来種によって在来種の生息環境が脅かされていることなどの説明がありました。



ヌマチチブ

まず、生き物を採取するため学習会前日から湖内に仕掛けておいたカゴ罠と、1本のはえ縄を子どもたちと引き上げました。しかし、残念ながらはえ縄には魚はかかっていませんでしたが、カゴ罠には、モクズガニやヌマチチブなど在来種が入っており、子どもたちは興味津々でした。

特に、モクズガニの腕に生えた毛のざらざらとした感触や、硬い甲羅に触れた子どもたちは、歓声を上げながら生き物とのふれあいを楽しんでいました。



かご罠を仕掛ける様子



モクズガニを触る子どもたち



捕れた生き物の説明

提供品等のご協力をいただきありがとうございました。

共 催：逆川こどもエコクラブ様

飲み物：いばらく乳業株式会社様、中央技術株式会社様

観戦チケット：株式会社フットボールクラブ 水戸ホーリー・ホック様

千波湖に入って「魚」たちを調べよう ～第5回千波湖環境学習会開催報告～

7月19日、千波湖にて「第5回千波湖環境学習会」を開催しました。最高気温34℃を記録する猛暑日となりましたが、夏休みの始まりと3連休初日が重なったこともあり、子ども94名・大人85名、計179名の皆さまにご参加いただき、大いにぎわいました。

※千波湖の西側（放流橋から西側）は、通常、生物類の採取や魚釣りが禁止されていますが、特別な許可により、本学習会では実際に千波湖に入って生物を採取することができます。



魚類等を採取する子どもたち

まず講師から説明があり、水生生物（魚類や甲殻類など）の採取方法や安全面の注意点などがわかりやすく解説されました。実際に採取をしているときは講師やスタッフが、常に子どもたちのそばで見守りながら、やさしく丁寧な指導を行い、安全で楽しい体験をサポートすることを心がけました。

今回は、子どもエコクラブ、逆川こどもエコクラブ、茨城エコ・カレッジ（体験コース）受講者の皆さんにもご参加いただき、交流を深めながら、和やかな雰囲気の中での活動となりました。

昨年に引き続き、親水デッキ付近に設置した漁獲用の罠の回収も行い、捕獲された生き物の観察を通して、千波湖の生態系への理解を深めました。また、参加した子どもたちは千波湖の浅瀬に入り、手網を使いながら魚類や甲殻類を夢中で探す姿が見られました。見つけた瞬間には歓声が上がり、「この魚は何て名前？」「見つけたよ！」と講師やスタッフに声をかけながら、生き物の特徴を熱心に観察し、好奇心いっぱいの表情がとても印象的でした。

最後は親水デッキに再集合し、講師と参加者全員で採取した生物の確認を行いました。今回の活動で採取・観察された主な水生生物は、ウナギ、スッポン、テナガエビ、タモロコ、モクズガニ、ブラックバス（外来種）など多岐にわたり、千波湖の生態系の豊かさを実感できる内容となりました。

今回の体験を通じて、子どもたちは水辺の自然とふれあいながら、たくさんの発見と感動を得ることができました。生き物への興味をきっかけに、環境への関心も高まり、千波湖が持つ自然の魅力を再認識する貴重な学びの場となりました。このような体験が、未来へとつながる自然とのかかわりの第一歩となることを願っています。



採取した生物

千波湖で採取された生物（令和元年度～令和7年度）

No	種類	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
1	魚類	モツゴ	モツゴ	モツゴ	モツゴ	モツゴ	モツゴ
2		タモロコ	タモロコ	タモロコ	タモロコ	タモロコ	タモロコ
3		ヌマチチブ	ヌマチチブ	ヌマチチブ	ヌマチチブ	ヌマチチブ	ヌマチチブ
4		ヨシノボリ	ヨシノボリ	ヨシノボリ	ヨシノボリ	ヨシノボリ	ヨシノボリ
5		ウキゴリ					ウナギ
6		コイ	ブルーギル	アメリカ ナマズ	オオクチバス	アメリカ ナマズ	ブラック バス
7			コイ	オオクチバス	ブルーギル	ブルーギル	
8				コイ	コイ	コイ	
9	甲殻類	テナガエビ	テナガエビ	テナガエビ	テナガエビ	テナガエビ	テナガエビ
10		スジエビ	スジエビ	スジエビ	スジエビ	スジエビ	スジエビ

※コイの外来生物については諸説あり。

提供品等ご協力いただきました、ありがとうございます。

飲み物：株式会社ジースケー茨城 様 中央技術株式会社 様

株式会社 PureCycle いばらき 様

全身すっきりシート：花王株式会社 様

千波湖周辺の昆虫を調べよう

～第6回千波湖環境学習会開催報告～

8月17日、「千波湖周辺の昆虫を調べよう」をテーマに、今年度7回目の千波湖環境学習会を開催しました。

親水デッキで開会した後、ふれあい広場を経由して少年の森へ向かうコースで行いました。

広場へ移動する際は、直射日光を避けて、できるだけ日陰になるようなところを歩き、到着後、子どもたちには15分ほど自由に昆虫採集してもらいました。

暑い中子どもたちは、捕虫網を振り回しながら元気に走り回り、その後、採集できた虫たちについて講師の説明を聞きました。

広場では、トンボやチョウを採集した後に少年の森へ移動し、カブトムシやクワガタなど雑木林で見られる昆虫を探しました。セミの抜け殻も数多く採集でき、今年も千波湖周辺に生息しているアブラゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシ、ツクツクボウシ、ニイニイゼミの5種類すべてを観察することができました。

この森ではカブトムシやクワガタなど大きな甲虫は夜に樹液にあつまり、日中はなかなか姿を見ることはできないのですが、大きなカブトムシをつかまえた子どももいて、歓声が上がっていました。

今回の観察会では、5種類のセミの他に、シオカラトンボ、ウスバキトンボ、ツマグロヒョウモン、カブトムシなど多くの虫たちを観察することができました。

最高気温が35度に迫る猛暑日にもかかわらず、親子で94名の参加があり盛況に開催でき、多くの昆虫を観察し、無事に学習会を終えることができました。

提供品等にご協力いただき、ありがとうございました。

全身すっきりシート：花王株式会社様



日陰を移動



採れた虫たちの説明を受ける子どもたち



少年の森でカブトムシなどを探す子どもたち

逆川に入って「生き物」を調べよう ～第7回千波湖環境学習会開催報告～

9月7日、逆川緑地・小門橋付近にて「第7回千波湖環境学習会」を開催しました。

今回は、たくさんの生き物が生息する逆川での実施とあって、親子 160 名の皆さんにご参加いただきました。

当協会の講師による挨拶と注意事項の説明の後、ライフジャケット・採捕網・飼育ケースが配布され、いよいよ逆川での生き物採取がスタートしました。

水着やマリンシューズで準備万端の参加者たちは、「避暑&レジャー&学び」を一度に楽しみながら、元気いっぱいに川へと入っていきました。お父さんお母さんも、童心に帰ったような表情で、夢中になって川の中を探る姿が印象的でした。網を手にした子どもたちは、石の下や草むらに潜むモツゴやヨシノボリなどの魚類、スジエビやヌマエビなどの甲殻類を次々に発見し、「いた！」「見つけた！」と歓声があがる場面も多く見られました。保護者の方々も一緒に川へ入り、親子で協力しながら生き物を探す姿はとても微笑ましく、自然の中で過ごす貴重な時間となりました。

採取活動の終了後は、水槽に集めた生き物の観察学習を実施。水槽の中には、ミズカマキなどの水生昆虫やウキゴリ・ヌマチチブなどの魚類、スジエビ・テナガエビ・モクズガニなどの甲殻類が多数確認され、逆川の豊かな生態系を実感することができました。

自分たちで採取した生き物の名前を元気に答える子どもたちの姿は、自然の中で得た学びがしっかりと根づいていることが感じられました。子どもたちは自然への好奇心と探求心にあふれ、講師の説明にも真剣に耳を傾けていました。実際に触れて、観察して、学ぶことで、環境への关心や命の大切さを育むきっかけになることを願いながら、子どもたちの未来がますます樂しみになる一日となりました。



提供品等にご協力いただき、ありがとうございました。

全身すっきりシート：花王株式会社様